

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2017年12月)

発表日: 2018年1月31日(水)

～生産は7四半期連続の上昇。先行きも増産傾向持続の公算大～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位:%)

	鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
16	1月	▲1.1	▲3.7	0.5	▲5.2	0.3	0.2	1.0	4.2	1.2	▲10.6	0.5	▲1.2
	2月	▲1.8	▲1.0	▲1.6	▲1.4	▲0.5	▲1.1	▲1.9	0.4	▲2.2	▲1.5	▲1.6	▲0.1
	3月	1.2	0.4	1.3	▲0.4	1.6	1.1	1.9	3.3	0.8	▲4.5	1.3	1.5
	4月	0.4	▲3.2	0.3	▲3.1	▲1.4	▲0.5	▲1.4	1.3	3.4	▲3.1	2.5	1.3
	5月	▲1.2	▲0.6	▲0.7	▲0.9	0.2	0.3	0.7	2.3	▲1.2	▲1.3	▲3.1	1.7
	6月	1.5	▲1.6	1.1	▲1.6	▲0.4	▲0.5	▲1.1	2.3	0.8	▲2.8	0.6	▲0.5
	7月	0.0	▲4.2	0.3	▲3.8	▲1.7	▲2.4	0.6	3.6	0.0	▲4.4	1.6	▲1.4
	8月	1.3	4.5	0.2	1.8	0.0	▲2.1	▲2.5	▲2.7	1.3	2.6	▲0.7	2.7
	9月	0.3	1.5	0.6	0.8	▲0.5	▲2.7	0.3	▲0.7	0.8	3.8	0.4	1.3
	10月	0.3	▲1.2	1.1	▲1.8	▲1.3	▲3.6	▲1.1	0.4	0.3	1.6	1.9	▲0.5
	11月	1.0	4.4	1.0	5.0	▲1.8	▲5.5	▲3.7	▲7.2	2.0	7.6	0.8	6.0
	12月	0.7	3.1	0.0	2.4	0.7	▲5.3	0.8	▲6.4	▲0.7	4.9	▲1.5	0.6
17	1月	▲2.1	3.2	▲1.1	4.2	0.1	▲5.0	2.5	▲5.0	▲2.3	4.4	▲2.1	1.5
	2月	3.2	4.7	1.4	3.7	0.7	▲3.9	▲0.3	▲3.4	1.7	4.0	3.0	3.3
	3月	▲1.9	3.5	▲0.8	3.5	1.5	▲4.0	0.2	▲5.1	▲4.4	1.6	0.0	3.3
	4月	4.0	5.7	2.7	4.9	1.5	▲1.1	2.9	▲1.1	6.5	4.2	5.2	5.0
	5月	▲3.6	6.5	▲2.9	5.4	0.0	▲1.3	▲1.9	▲3.6	2.1	9.5	▲3.8	6.8
	6月	2.2	5.5	2.5	5.3	▲2.0	▲2.9	▲1.9	▲4.3	▲0.9	6.1	1.2	5.9
	7月	▲0.8	4.7	▲0.7	4.1	▲1.1	▲2.3	2.6	▲2.4	▲4.3	1.5	▲1.4	2.8
	8月	2.0	5.3	1.8	5.8	▲0.6	▲2.9	▲4.1	▲4.1	9.8	10.1	▲0.3	3.1
	9月	▲1.0	2.6	▲2.5	1.5	0.0	▲2.4	1.6	▲2.8	▲6.1	2.1	▲0.7	1.0
	10月	0.5	5.9	▲0.4	2.7	3.2	2.0	3.5	1.8	1.6	5.4	▲0.4	1.3
	11月	0.5	3.6	2.3	2.3	▲0.8	3.0	▲2.7	2.8	3.7	5.6	0.9	▲0.2
	12月	2.7	4.2	2.7	4.0	▲0.4	2.0	▲0.5	1.5	3.7	9.8	1.6	1.9
18	1月	▲4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2月	5.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)18年1、2月は、製造工業生産予測調査の数値

○10-12月期は前期比+1.8%と高い伸びに

経済産業省より発表された2017年12月の鉱工業生産は前月比+2.7%と、事前の市場予想(前月比+1.6%)を大きく上回る結果となった。これで3ヶ月連続のプラスであり、上昇幅も大きい。また、出荷指数も前月比+2.7%と、前月の+2.3%に続いて高い伸びとなったことで、在庫指数、在庫率指数も2ヶ月連続の低下となっている。強い結果といって良い。

この結果、10-12月期の生産は前期比+1.8%となった。これで7四半期連続の増産であり、増加幅も7-9月期の+0.4%から明確に高まっている。世界経済が好調に推移していることを背景に輸出が増加傾向で推移しており、生産活動も活発化していることが確認できる。なお、10-12月期の内訳では、特に輸送機械(前期比+3.1%、前期比寄与度+0.6%Pt)、はん用・生産用・業務用機械工業(前期比+4.2%、前期比寄与度+0.6%Pt)の押し上げ寄与が大きい。

○予測指数は1月大幅低下、2月大幅上昇だが、均してみれば増加傾向持続

同時に公表された製造工業予測指数は、18年1月が前月比▲4.3%、2月が+5.7%となった。12月の高い伸びの反動もあって1月は大幅な低下が見込まれているが、2月は逆に大幅な上昇予想となっており、均してみれば上昇傾向持続という評価で良いだろう。なお、予測指数と実績の乖離を考慮している経済産業省試

算値では1月は前月比▲4.3%と、予測指数と同じ数字になっている。ここで仮に1、2月が予測指数通り、3月が前月比横ばいと仮定すれば、1-3月期の鉱工業生産は前期比+1.2%となる。2、3月が多少下振れたとしても前期比プラスはなんとか確保できそうだ。10-12月期の高い伸び（前期比+1.8%）の後にはしては悪くなく、鉱工業生産の着実な改善基調に変化はないと判断して良いだろう。実際、足もとの企業景況感は非常に良好で、製造業PMIなどはむしろ伸びを高めているような状況である。好調な海外経済を背景として輸出は引き続き増加基調で推移する可能性が高いことに加え、内需についても、企業収益の改善を背景に設備投資の増加が見込まれることが押し上げ要因になるとみられる。外部環境は良好で、鉱工業生産は先行きも増産傾向を続ける可能性が高い。

○電子部品・デバイスは要注意

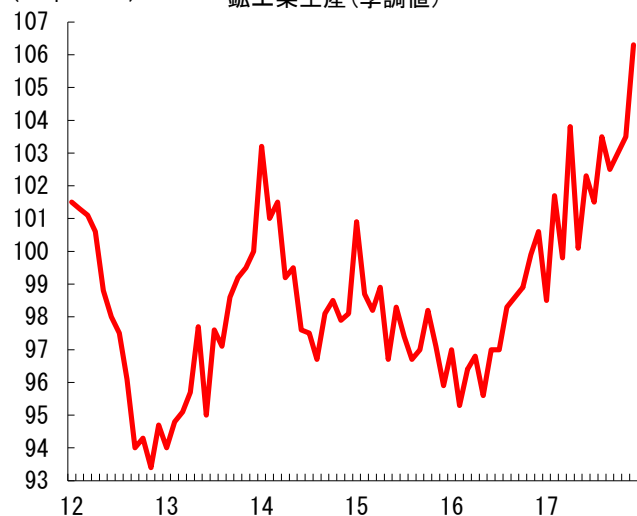
このように基本的には良好な状況が続くそうなのだが、IT部門の動向には注意しておきたい。10-12月期の電子部品・デバイスの生産は▲0.2%と微減。前期比マイナスは16年4-6月期以来のことである。また、出荷指数は前期比▲2.9%と比較的大きな低下。これまで同業種の高い伸びが生産の押し上げ要因になっていたが、足元では伸びが一服する形である。また、まだ水準は低いものの、在庫指数がじわじわと上昇している点も気にかかる。生産予測指数は1月に前月比+4.8%、2月に+13.5%と非常に強く、上昇基調が途切れたわけではないと思われるが、大手メーカーの新型スマホの売れ行き不振といった報道も出ており、この数字通りにいくかどうかはなんともいえない。以前と比べて、IT関連財のスマホ依存度は低下しているといわれているが、注意しておくに越したことはないだろう。

○設備投資関連が好調

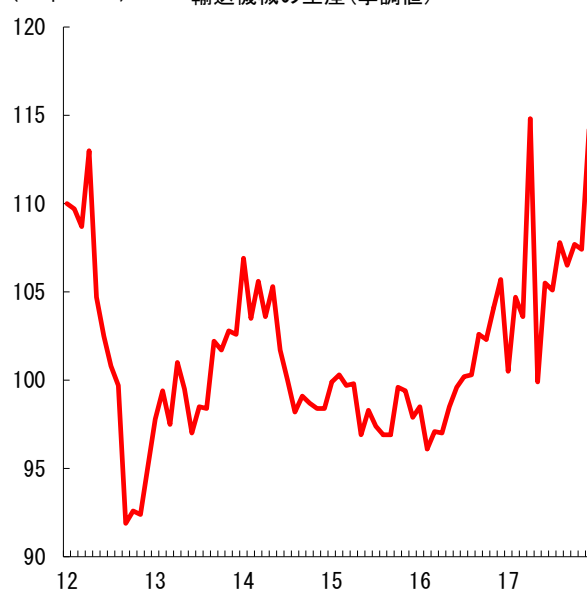
出荷を財別にみると、設備投資関連の好調さが目立つ。10-12月期の資本財出荷は前期比+1.8%、輸送機器を除いたベースでは+4.2%と高い伸びだった。出荷指数には輸出向けが含まれていることに注意は必要だが、そのことを考慮しても10-12月期の設備投資は良好に推移した可能性が高いだろう。

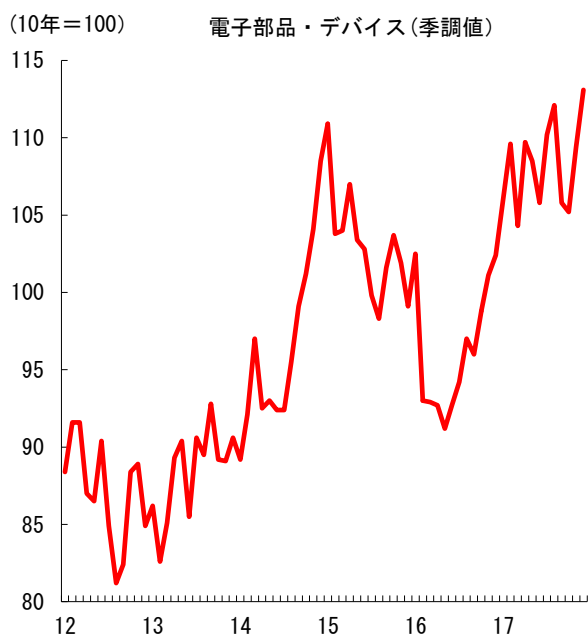
10-12月期の消費財出荷は前期比+0.1%となっている。一応プラスだが、7-9月期に▲2.3%と落ち込んだ後には物足りない。個人消費は緩やかな増加傾向にあるとみられるが、その足取りはまだ鈍いものにとどまっているようだ。

(10年=100) 鉱工業生産(季調値)

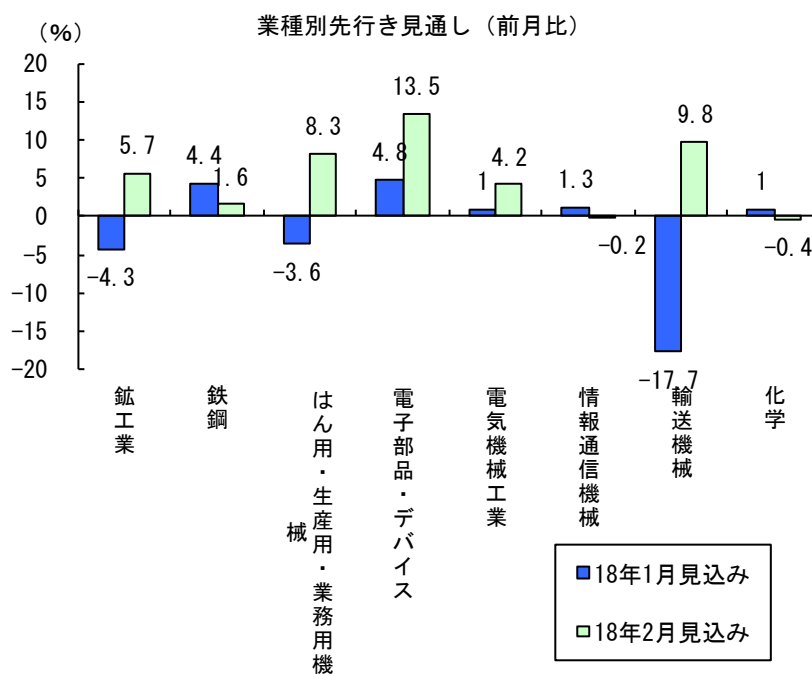


(10年=100) 輸送機械の生産(季調値)





出所) 経済産業省「鉱工業指数」



(出所) 経済産業省「製造工業生産予測調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。